



椰子の葉陰に

NO. 1

学校施設 号

2011/2/11

北海道を旅立ちあつという間の1年になりました。南半球南緯6度のジャカルタでの生活にも慣れ、中学2年担任も終わろうとしています。1年間の報告として情報をお送りします。

1. 学校紹介

世界でも有数の規模を誇る日本人学校として今年で42年目(1968年創設)になりました。今年についても700名を超える児童生徒が学んでおり、学級数も小学部19クラス、中学部5クラス(2010年度)。低学年については4クラスの学年もあり、年々児童生徒数も増加傾向にあることで、国内の好景気を実感できます。

校舎環境は素晴らしく、グラウンドは小中各1面。プールも小中別。体育館も小学校中学校別にそれぞれ。中学校体育館については式典対策もありエアコンも設置されています。小学部低中学年・高学年・中学部と吹き抜けの設計により中央部での小集会も開催できるなど充実しています。



物品の不足の覚悟の在外教育施設。そんな不安もなく完璧な設備と豊富な教育物品に囲まれています。

校地内には国内でも有名な植物

園以上に数多くの種類の植物が植えられており、さまざまなフルーツや珍しい花や木も見るができます。また、珍しいトカゲや昆虫や蝶も教室に入ってくることも少なくないなど、自然にも恵まれた環境です。



2. 特色

インドネシアの宗教的な特色ともいえる朝の早さ(ムスリムの4時のお祈りの関係で)もあって、世界一とも言われる“交通渋滞”を避けるために、早めの行動が徹底されています。ちなみに私たちの出勤完了は6:30。始業は7:35。企業の就業終了時間前に帰宅させるため14:35に児童生徒は放課。



市場の見学(3年生) 伝統的な影絵を見学(6年生)

総合的な学習の時間では、インドネシア理解教育として現地校との交流や現地施設の見学、自然体験など、ここでしかできない教育活動に力を入れています。また在外教育施設としての外国語教育は、英会話とインドネシア語を毎週各1回行っています。

小学部はバンドン、中学部はバリへの修学旅行することによって地域(島)による特色あるインドネシア文化にも触れます。

南国ならではの水泳授業も1年中を通して行っており、真っ黒に日焼けした子どもたち、ほぼ全員が泳ぐことができます。



年中稼働のプール

折り紙で交流

伝統衣装パティックの試着



修学旅行でのマングローブ植樹体験

中学2年バリ修学旅行



稲作・稲刈り体験

庶民の足！バジャイ・ベチャ搭乗体験

3. 進路指導

北海道には全く想像がつかない世界・全国規模の受験先。インター校を含み、海外受験校など選択は多岐にわたる。

今年度については、単身アメリカに渡ることになる慶応義塾ニューヨーク校、東南アジア圏の在外教育施設の受け皿として代表される進学校、早稲田渋谷シンガポール校といった大学付属に15%。現地インターナショナル校(オーストラリア、シンガポールインターナショナル校)へは10%。国内国公立へは25%。他は国内有名私立国立高校50%といった状況。また自動車、バイクメーカーも多いため静岡県進学校受験、関西私立大学付属校の受験も目立つ。海外も含め、高校選択は私立大学(有名6大学)を意識した高校選択。そして偏差値のより高い所を受験する傾向があり、多い子で10校を受験する。(中学入学についても同様の傾向が見られるが、中学部への進学を希望する子も増えてきている。)

12月で3年間の教科書を終わらせ、「3学期は日本へ帰国して受験対策」「3学期は中3の登校者は数名」といった従来の流れに対し、今年度の進路指導は「早め早めの進路指導」「卒業までの充実した指導」。これにより3学期にはすでに進路を決めた子を増え、例年よりは3年生の姿を今年は見ることができる。

※早稲田渋谷シンガポール校: TOEIC300点で入学したとしても、卒業までに700点後半をとらせるといった徹底した英語指導と、推薦での進学先、私立大学は100%確保している。ほぼ全員が寄宿舎生活になるが、夜22時まで教職員が自習の面倒をみるという進学校。